

# 移転後を見据えて

## 大学が消える街

箱崎は今

◆ 1

「ここは大学時代の思い出が詰まっています。今ま出が詰まっています。今まで本当にお世話になりました。九州大学近くの料理店「あと山」(福岡市東区箱崎)を訪れた同大学ラグビー部OBの福岡吉孝さん(三三)は、おかみの後山豊子さん(八三)らに深々と頭を下げた。「あと山」の閉店が月末に迫った昨年五月半ばのことだ。

ラグビー部員は常連客だ。九州大学周辺には、太陽

## 大食漢どもが夢の跡

らしの寂しさが紛れた」と入学のころを懐かしむ。

九州大学周辺には、太陽

## 閉店

懐が寂しい九大生にとっでは安さが大きな魅力だった。「これだけしか払えなけれど、食べさせてください」。後山さんはコンパの幹事学生に泣きつかれて、予算に応じた献立を融通した。すき焼きが無理な苦学生には水炊きを振る舞った。

若者たちは大広間の舞台でさまざまな宴会芸を披露した。仲居さんも三味線を手と一緒に盛り上げていった。追い打ちをか

を囲む星のように学生た。学生は「あと山」からの愛した店が点在した。料理店「あと山」もその一つ。福岡さんは「また箱崎の星が消えた」と肩を落とした。

「いつか、大勢が集まって、時間を気にせず思い出話に花を咲かせられる店をまた開きたい」と二代目おかみの後山洋子さん(六〇)。「あと山」の閉店を告げた張り紙の余白に、誰かが「またこの街で再開してください」と書き込んでいた。始めた箱崎の街を描く。



「またゆっくりと思い出話のできる店をつくりたい」と語る二代目おかみの後山洋子さん

